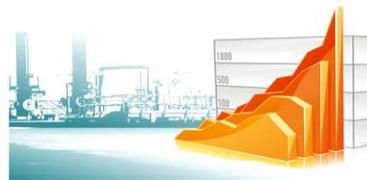


ぎふ経済レポート



令和2年5月分
岐阜県商工労働部

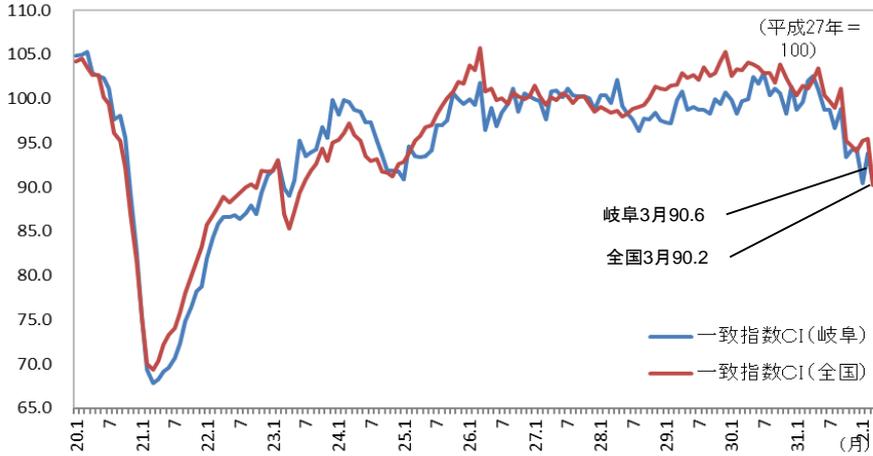
※企業等へのヒアリングは 5月25日～27日を中心に実施し、6月18日に作成。

景気動向

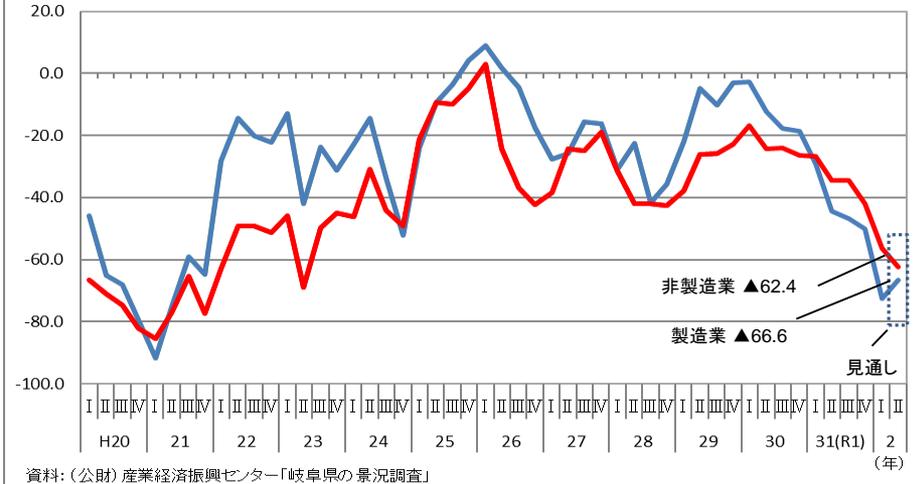
- 3月の景気動向指数(一致指数)は、90.6で前月比▲3.2ポイント低下した。
- 4月の県内中小企業の景況感は、▲77で前月比▲6ポイントと低下した。

- 4-6月期の景況DI見通しは、製造業で▲5.9ポイント上昇、非製造業で▲6.1ポイントと低下。
- 同売上高DIは、製造業で▲0.5ポイント、非製造業で▲5.1ポイントと低下。

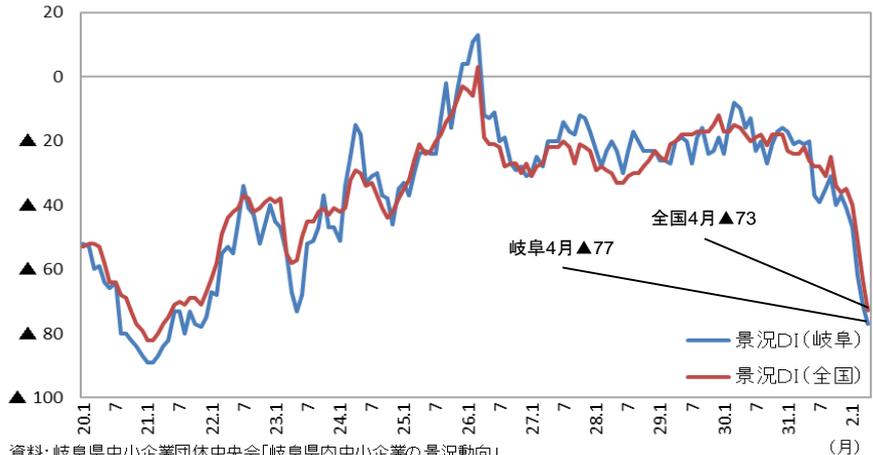
岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移



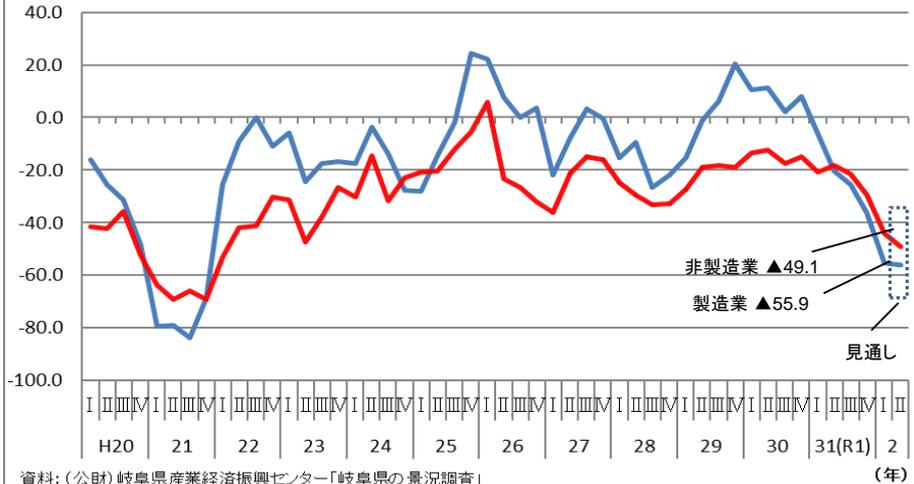
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移

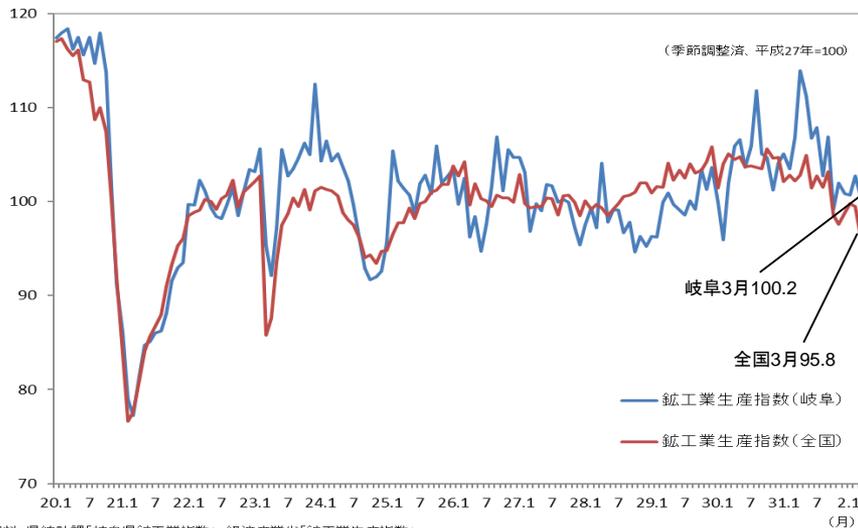


製造業

- 3月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、100.2で前月比▲2.5%と低下した。
- 前月比では、化学、繊維、金属を除き多くの産業で低下した。

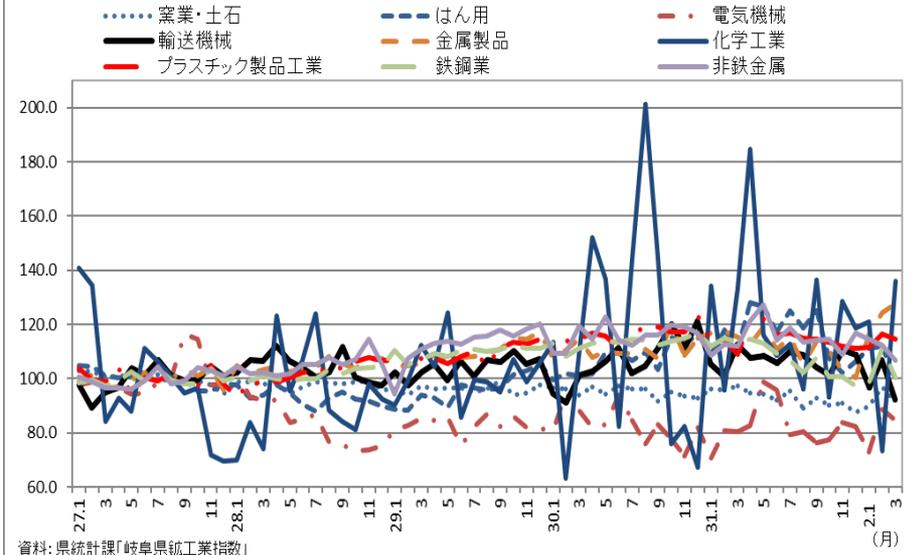
- 3月の主な産業の指数は、化学工業で前月比85.1%と大幅に増加したが、輸送機械で同▲13.7%、はん用で同▲11.2%、鉄鋼業で同▲10.0%など、低下する産業が目立った。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)



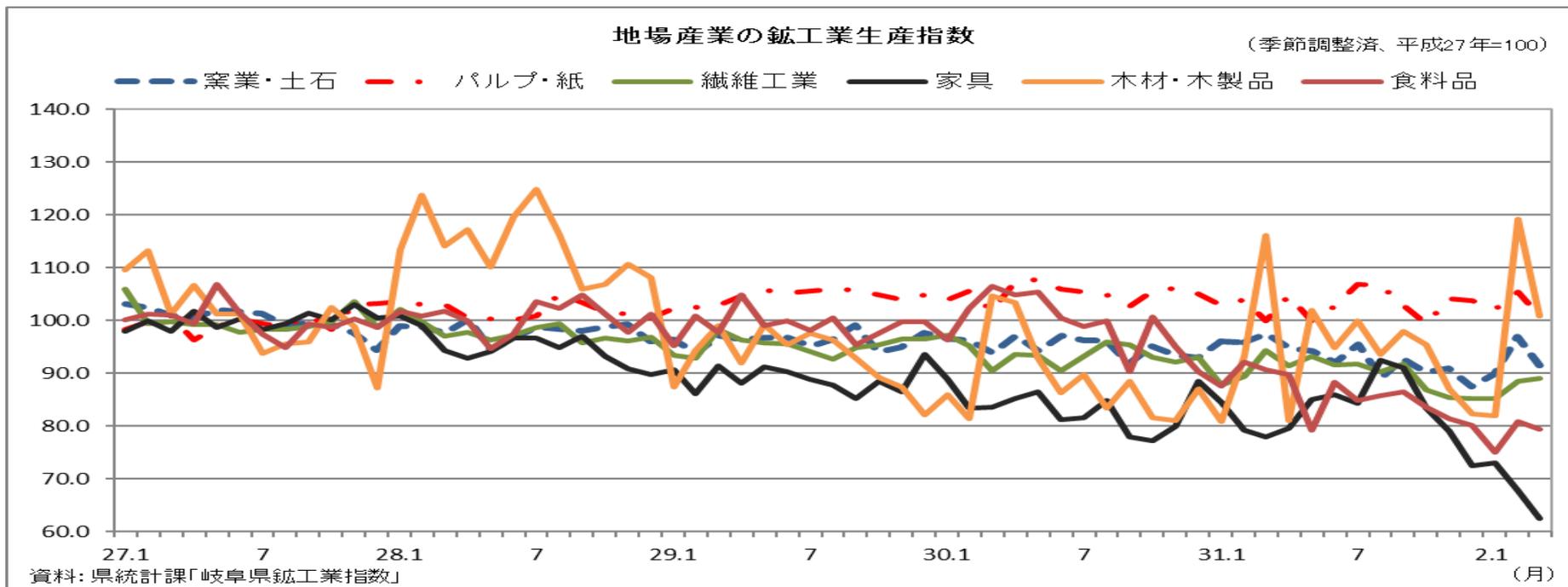
現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆自動車部品関係において4月から大幅に減産。臨時休業を行い、雇用調整助成金を申請する予定。(輸送用機械)
- ◆新型コロナウイルスの影響により、工場の稼働率は6割程度まで落ち込んでいる。従業員の出勤の調整は行っておらず、残業で調整している。(輸送用機械)
- ◆プラスチック形成事業のうちスマートフォン向け電子ペンは、テレワークや在宅勤務の増加により、それほど落ち込んでいないが、その他の製品については、受注減となっている。(電気機械器具)
- ◆中国の景気が回復傾向にあり、自動車や建設機械部品の輸出が増加しているが、米中貿易摩擦の更なる拡大が心配。(生産用機械)

製造業-2

○3月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、繊維工業で前月比0.7%上昇したものの、木材・木製品で同▲15.4%、家具で同▲8.0%、窯業・土石で同▲5.9%、パルプ・紙で同▲4.5%、食料品で同▲1.6%と低下するなど、多くの産業で低下した。



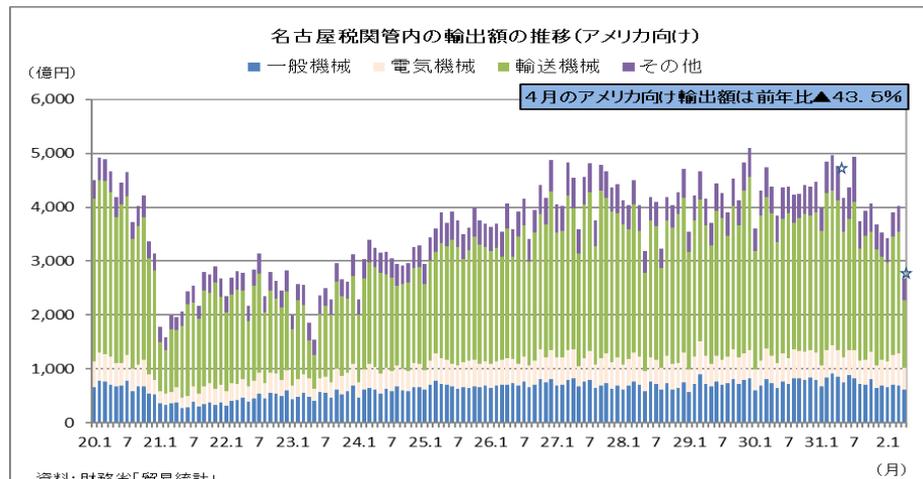
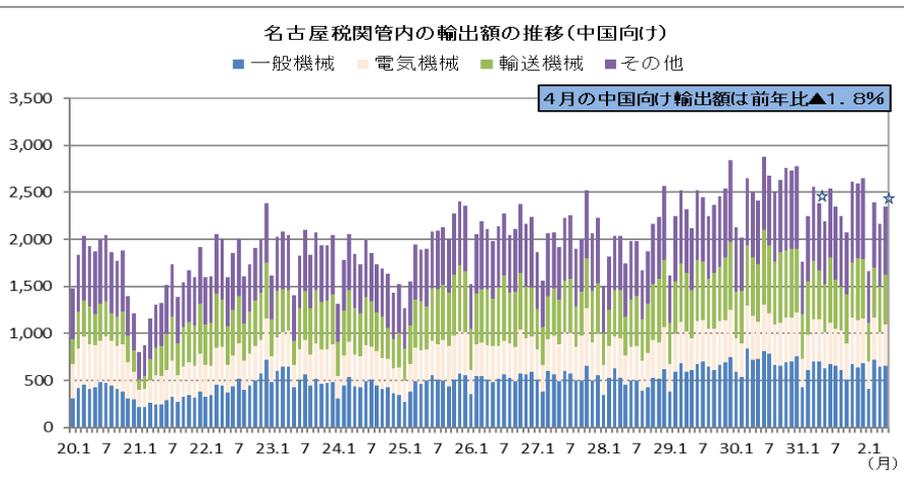
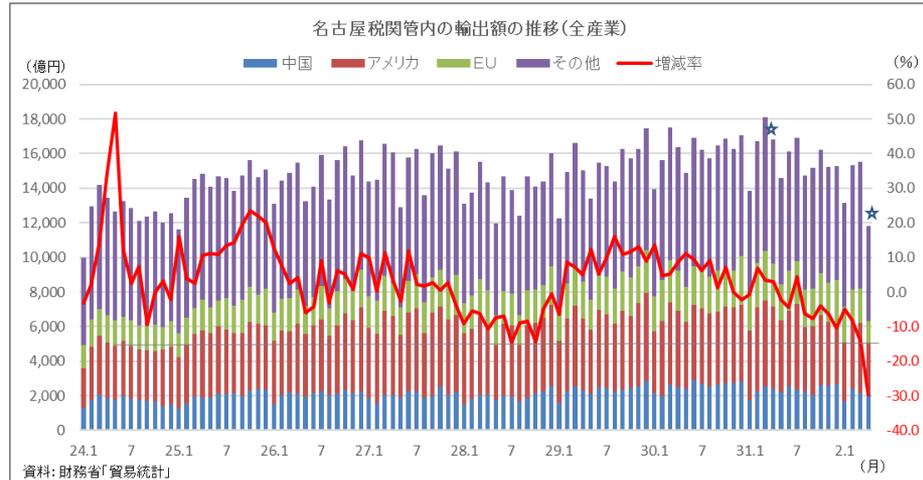
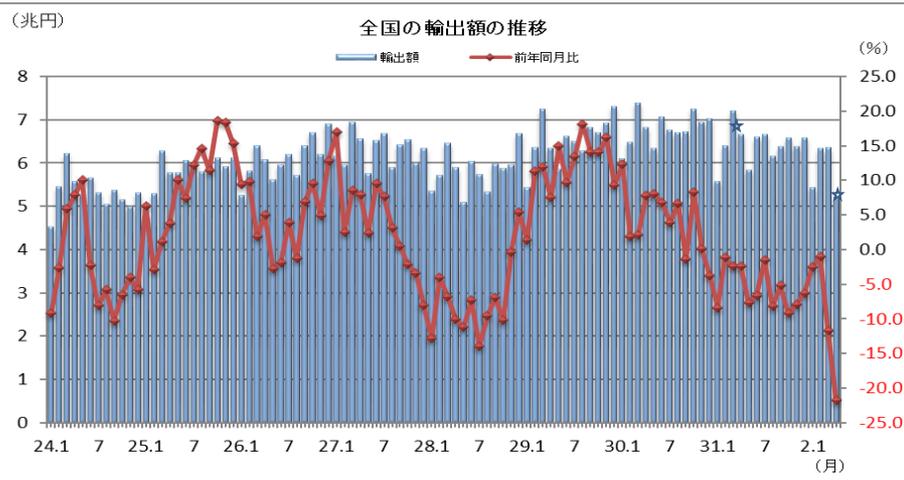
(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

現場の動き

- ◆4月まではコロナの影響前の受注を処理していたが、5月は新たな受注もなく、より厳しい状況になった。レナウンの経営破綻による影響もいずれ出てくると考えられる。(繊維・アパレル)
- ◆主な取引先のうち、飲食業界や航空会社(機内食用)はコロナの影響が大きく、購入控えが続いている。他方、大手ホテル・レストランは、新築オープンやアフターコロナに向けて購入がある。(陶磁器)
- ◆夏・秋以降の商品出荷に向けて動き始めなければいけない時期だが、先が見通せず、動けない。(紙)
- ◆4月は3月受注分を処理しており問題は少なかったが、4月下旬~5月は受注が無く売上げが下がった。(木工)

輸 出(名古屋税関管内)

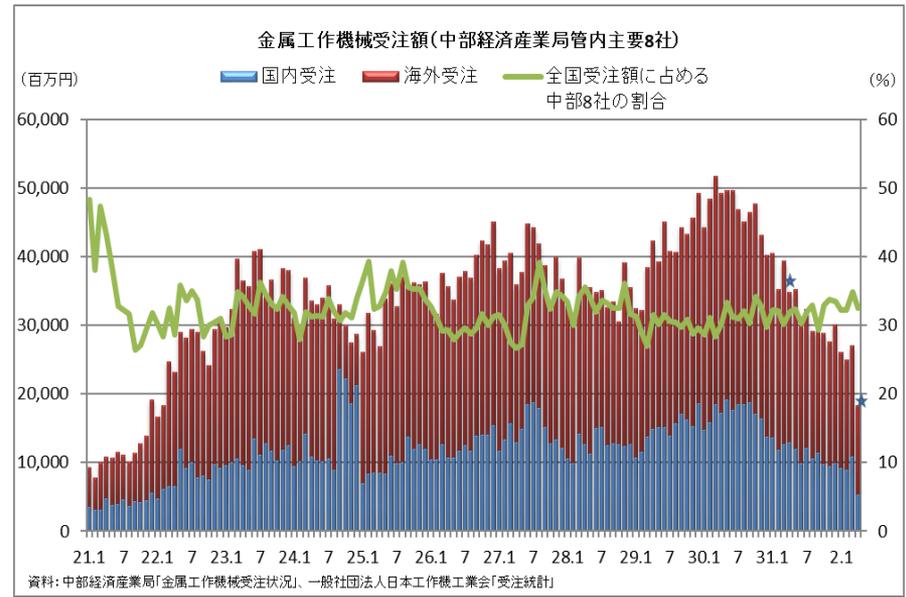
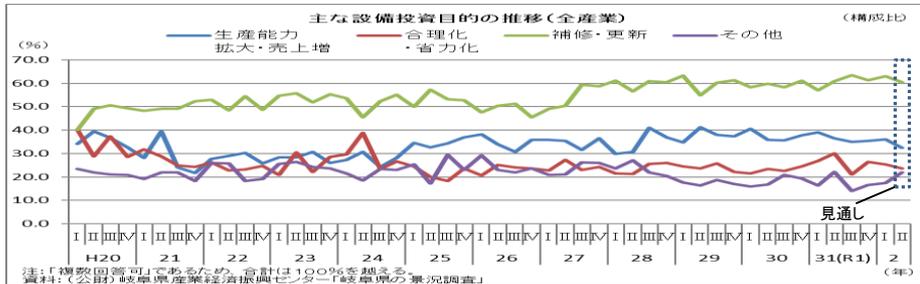
- 4月の輸出額(全国)は、5兆2,060億円の前年同月比▲21.8%と17ヶ月連続で減少となった。
- 4月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆1,811億円の前年同月比▲29.8%と大幅に減少し、9ヶ月連続で前年同月を下回った。
- 中国向けは、全体で前年同月比▲1.8%と減少し、前年を下回った。その内、輸送機械は前年同月比で1.8%増加したが、一般機械で同▲5.7%、電気機械で同▲3.3%減少した。
- アメリカ向けは、全体で前年同月比で▲43.5%と大幅に減少し、9ヶ月連続で前年を下回った。



設備投資

○4-6月期の設備投資実施見通しは前期比0.2ポイントと上昇、設備投資意欲DI見通しは同▲1.6ポイントと低下。設備投資実施の目的別では、「生産能力拡大・売上増」で前期比▲3.6ポイント、「補修・更新」で同▲2.6ポイント、「合理化・省力化」は同▲1.8ポイントと低下した。

○4月の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比▲47.6%と18ヶ月連続で前年を下回った。内訳は国内受注では同▲58.3%と17ヶ月連続で前年を下回り、海外向けも同▲41.1%と18ヶ月連続で前年を下回った。



現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆令和2年8月納品予定の設備は今のところ予定どおりに進んでいるが、今後の設備投資は未定である。(生産用機械器具)
- ◆新型コロナウイルスの影響により、新工場の引渡しが遅延する見込みである。(はん用機械)
- ◆老朽化設備の更新など以前から計画されていたものはあるが、新発での設備投資は延期の傾向にある。(金融)
- ◆IT関連の設備投資には、補助金を利用し、前向き対応している。(生産用機械)
- ◆ものづくり補助金を申請しており、承認となれば設備投資を実施する予定である。(刃物)

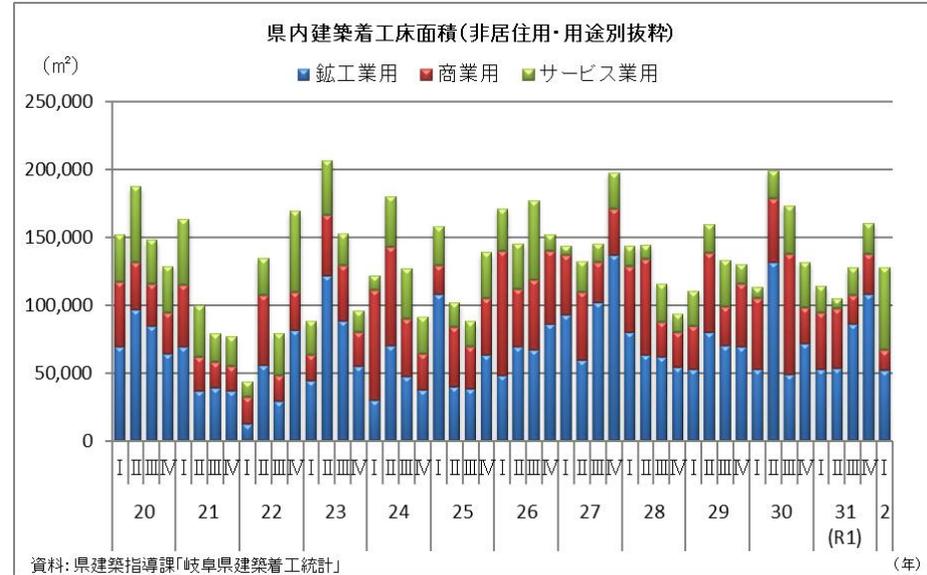
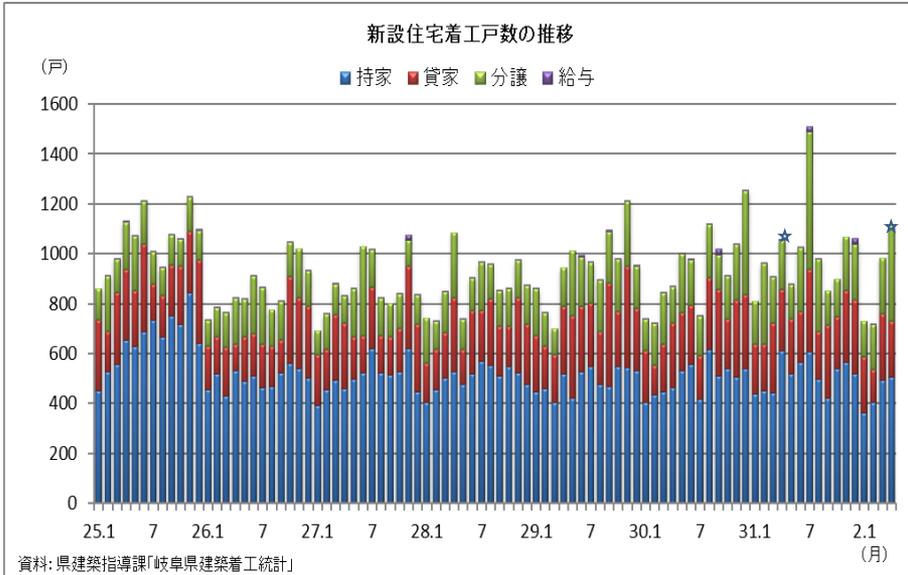
製造業関係における新型コロナウイルスの影響について

- ◆週4日半の勤務になっている。食事の時間帯を分けたり、向かい合う席についたてを置くなどで3密や飛沫対策を実施している。(輸送用機械)
- ◆受注の回復は中国からとの思惑もあったが、在庫が残っていることもあり劇的に回復が始まったとの感覚は得られていない。(輸送用機械)
- ◆緊急事態宣言中は客先訪問は禁止し、WEB会議/電話会議にて対応した。(輸送用機械)
- ◆主要取引先(自動車メーカー)の一部車種について、新型コロナウイルスの影響により注文変動が発生。部分的に従業員の休業を実施し生産調整している。(輸送用機械)
- ◆予定していた外国人技能実習生や特定技能の受入れは中断。受入れが正常化されるのは年明けと予測している。(輸送用機械)
- ◆融資など資金繰り支援は活用していないが、7月以降も経済状況の回復が見込めない場合は、安心のため融資を申し込む可能性はある。(輸送機械)
- ◆新型コロナウイルスの影響で5月の売上は前年同月比で半減。6月中旬までは雇用調整を行う見込み。欧州での落ち込みが大きいものの、中国は持ち直している。(非鉄金属製造業)
- ◆ほとんどの顧客は需要回復時期が読めず明確な生産計画が組めない状況で、我々の受注や売上計画の見通しが立たない。(生産用機械)
- ◆受注・売上ともに低迷しており、先が見通せない状況。海外への渡航制限により現地での商談や製品引き渡し停滞しており、国内でもまだ県境を越える移動を自粛しており営業活動等に支障が出ている。(生産用機械)
- ◆新型コロナウイルス対策のテレワークの影響で都市部における昼食需要が減少し、コンビニの売上が減少。当社の売上にも影響が出ている。(プラスチック製品)
- ◆中国での持ち直しもあり、7月以降から徐々に回復する見通し。ただし6月は既に大手取引先が週休3日の体制を示しており、それにシフトをあわせることとなる。(プラスチック製品)
- ◆緊急事態宣言発令以降、注文が激減した。7月以降も回復の見込みが立たないため、雇用調整助成金制度の延長がない限り、リストラや工場の一部停止措置を取らざるを得ない。(陶磁器)
- ◆コロナの影響で受注数が少なく、現在、人手が余っている。工場稼働の見通しも立たない。(陶磁器)
- ◆食品と違い、家具は食などの基本的な地盤が整ってから、ようやく需要がある。緊急事態宣言のあった4～5月よりも、今後、受注をしていただけるか不安である。(木工)

住宅・建築投資

○4月の住宅着工戸数は、前年同月比5.0%と2ヶ月連続で前年同月を上回った。
 ○持家で前年同月比▲16.9%、貸家で同▲9.3%と減少したものの、分譲で同94.4%と増加した。

○1-3月期の建築着工床面積は、サービス業で前年同期比208.0%と増加したものの、商業用で同▲65.0%、鉱工業用で同▲0.9%と減少したことから全体としては同▲3.8%と減少した。

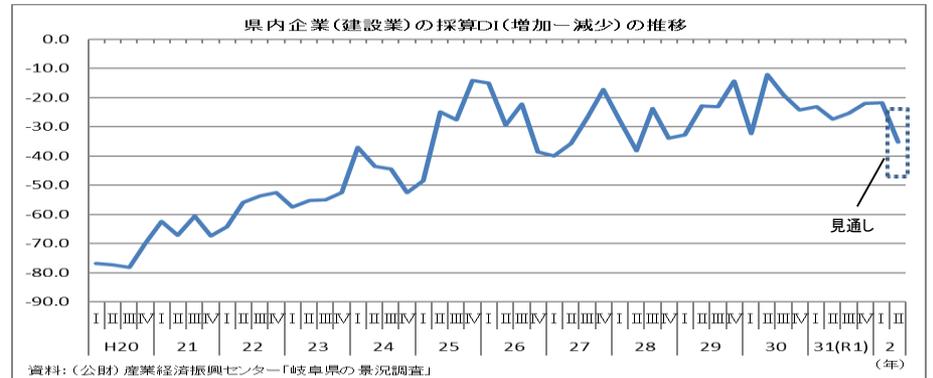
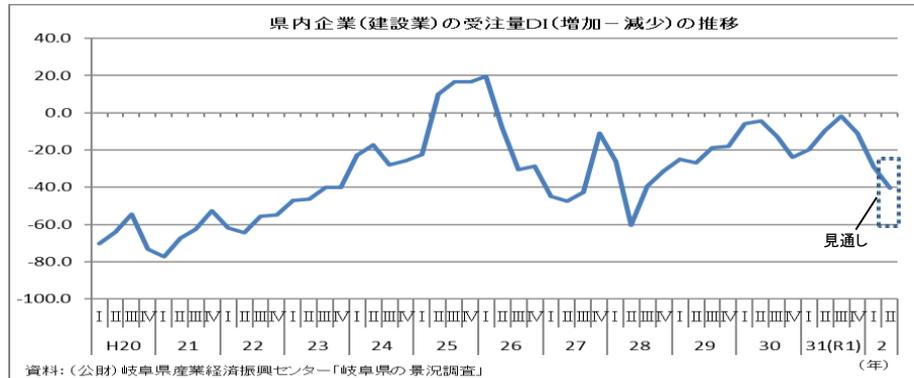
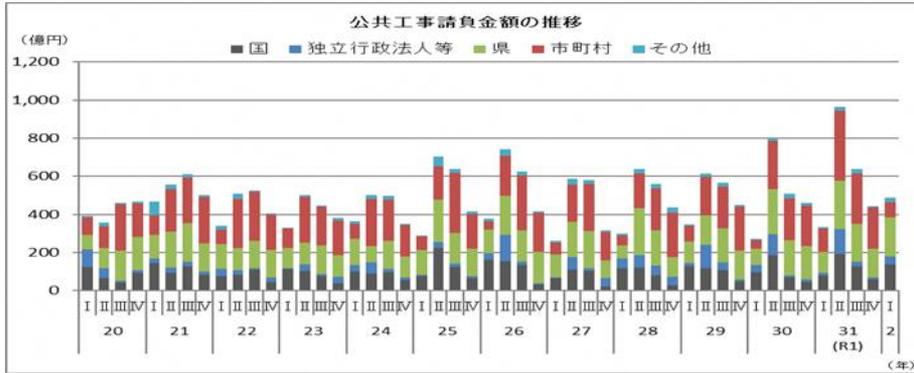


現場の動き

- ◆民間事業者の木材生産は順調な出材状況が続いていたが、新型コロナウイルスの影響により材価が急落しており、伐り控えが始まっている。(木材市場)
- ◆大型製材工場が生産調整を始めたことにより、システム販売を中心に流通が低迷している。(木材市場)
- ◆住宅建材などの入荷状況は改善してきている。(木材加工)
- ◆国の緊急事態宣言が解除されてから展示場を予約制で再開した。(住宅建設)
- ◆昨年から引き続き値下げ要請が続いており、今後応じる予定。(製材)
- ◆製材工場や合板工場から受け入れ制限があり、計画量の2割減となっている。また、月末3日間の受け入れ停止期間を設けられた。(森林組合)

公共工事

- 1-3月期の発注者別の公共工事請負金額は、独立行政法人等で前年同月比211.4%、県で同87.0%、国で同71.9%増加するなど、全体で同46.2%増加した。
- 県内建設業の4-6月期の受注量DI見通しは前期比▲11.6ポイントと低下、同採算DI見通しは同▲13.5ポイントと低下。



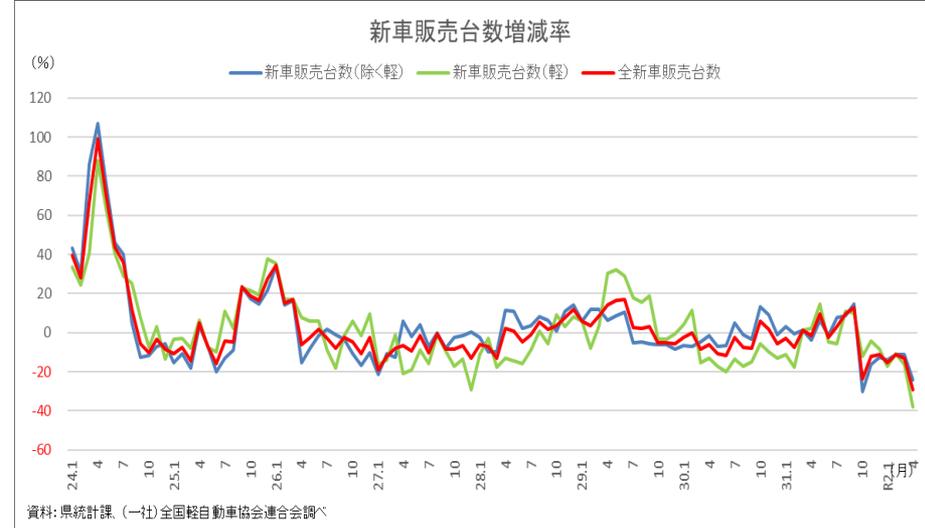
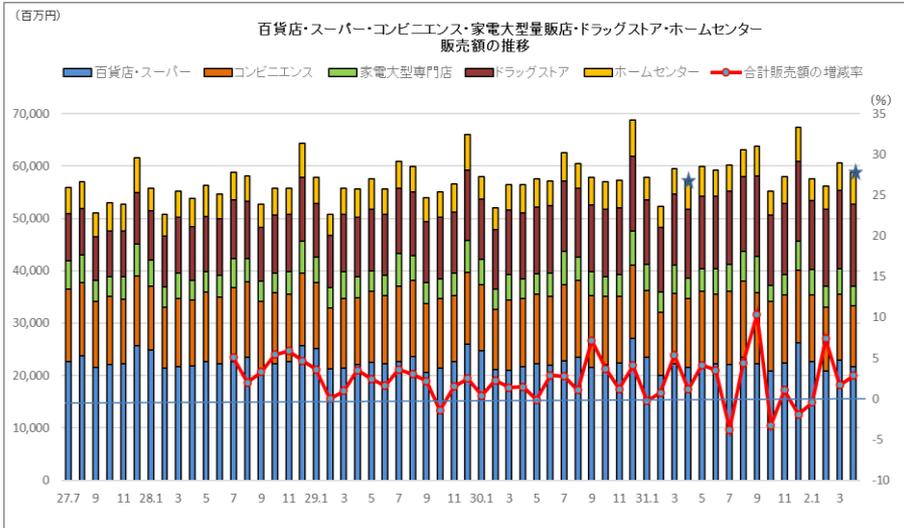
現場の動き

- ◆発注見通しも出され、順調に入札がすすんでいる。平準化が進んでいることを感じられる。コロナの影響による公共建設分野における売上げの減少は特に感じていない。
- ◆コロナの影響で入社式を一ヶ月遅らせた。全体研修を少なくし、OJTメインの新人研修を進めている。
- ◆当面、在宅ワークを取り入れての業務形態へ移行した。結果として、業務の進め方、求められる品質について改革が進んでいる。(以上、建設)

個人消費(流通・小売)

○4月はコンビニで前年同月比▲11.9%、家電大型専門店と同▲4.6%、百貨店・スーパーで同▲1.7%減少したものの、ドラッグストアで同19.4%、ホームセンターで同11.3%増加し、全体では同2.9%と3ヶ月連続で増加した。

○4月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比▲24.2%と7ヶ月連続で減少し、軽自動車も同▲37.8%と7ヶ月連続で減少した。
○合算では同▲29.2%と、7ヶ月連続で前年同月を下回った。



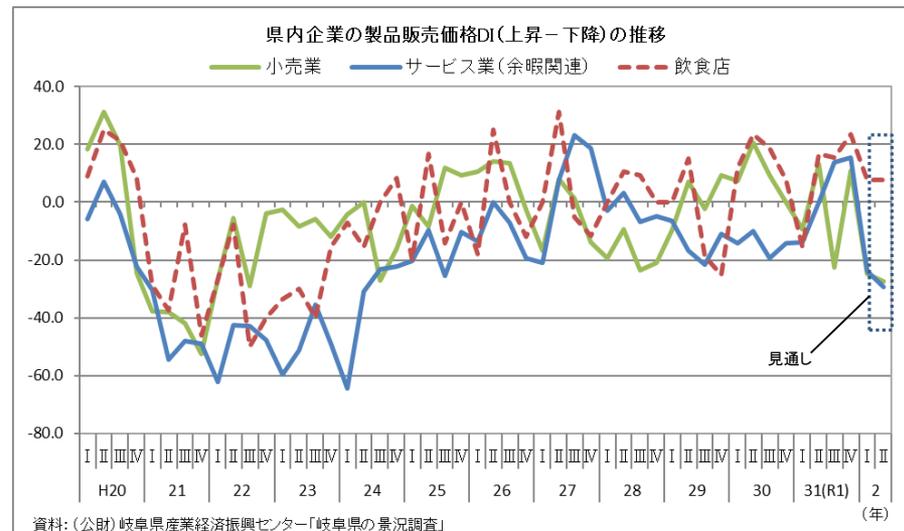
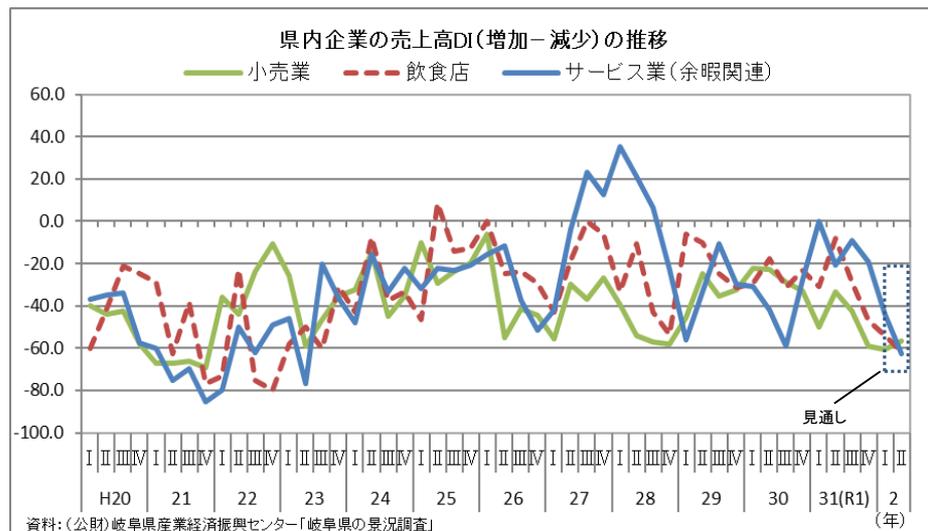
現場の動き

- ◆イベント等も軒並み凍結しており、売上・集客に期待できない。生活必需品は売り上げは良いが、嗜好品は伸びない。在宅時間の増加からか、掃除用品や小型家具類の売り上げは伸びた。(岐阜市内大型商業施設)
- ◆外出自粛に伴い来店頻度が低下し、ネット販売など非接触型の購入が伸びている。また、自宅で時間を過ごす時間が増えていることから、時間消費型商品の消費が伸びている。(各務原市内大型商業施設)
- ◆GW明けからは下着や子供衣類は前年同月比並みに戻ったが、大人向けは同比▲40%~▲30%で推移。(大垣市内大型商業施設)
- ◆スポーツ全般の活動が制限されていて、深刻な状況。(岐阜市内スポーツ用品店)
- ◆外出自粛・テレワーク推進により、調理器具・無線環境商品の売上が引き続き多いと感じている。(岐阜市内家電量販店)

個人消費(流通・小売)－2

○4－6月期の売上高DI見通しは、小売業で前期比4.1ポイント上昇したものの、サービス(余暇関連)では同▲18.5ポイント、飲食店で同▲7.7ポイントと低下した。

○同じく販売価格DI見通しは、飲食店で前期比同水準となり、サービス業(余暇関連)で同▲5.2ポイント、小売業で同▲2.7ポイントと低下した。



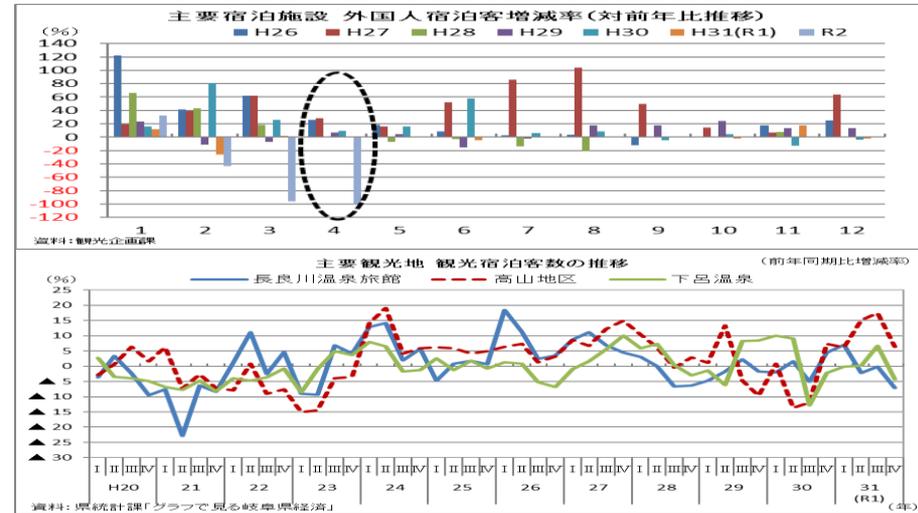
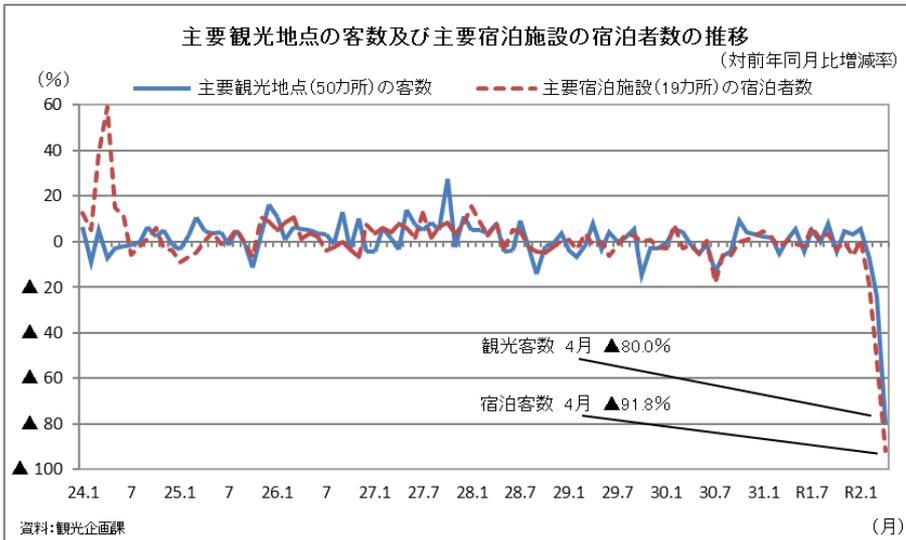
現場の動き

- ◆消毒用アルコールを数か所設置し、安全対策をとりながら各種イベントやバーゲンの再開の時期を検討中。菓子店の売上は前年同月比▲50%、飲食店は同▲68%、ブティックで同▲85%。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆日用品・雑貨店の売上は前年同月比▲10%。店頭では新型コロナウイルス対策用品(使い捨て不織布マスク、布マスク用のガーゼ、さらし、ゴム紐、ウェットティッシュ)が売れた。和菓子店の売上は同▲40%程度。例年ならGWや大垣まつりなど、市外から大勢の方が来店される時期であり、減収幅が大きく影響が出た。(大垣市商店街)
- ◆家電販売店の売上は前年同月比▲18%。特別定額給付金支給後の売上増加を期待したが、先々の不安から買い替えを楽しむ生活の余裕はないとみられ、今後も厳しい状況が続くとみられる。(高山市商店街)
- ◆酒類販売店の売上は前年同月比▲50%。消毒用酒類を数十本入荷したところ即完売ではあった。業界的に様々なイベントや宴会ができるようにならないと一般顧客の購買回復には繋がらず、依然厳しい状態は続くと思われる。(多治見市商店街)

観光

○主要観光地における4月の観光客数は、前年同月比▲80.0%の減少と3ヶ月連続で前年同月を下回った。主要宿泊施設における宿泊者数は、前年同月比▲91.8%と大幅に減少し、3ヶ月連続で前年同月を下回った。

○4月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比▲99.95%と大幅に減少し、3ヶ月連続で前年同月を下回った。

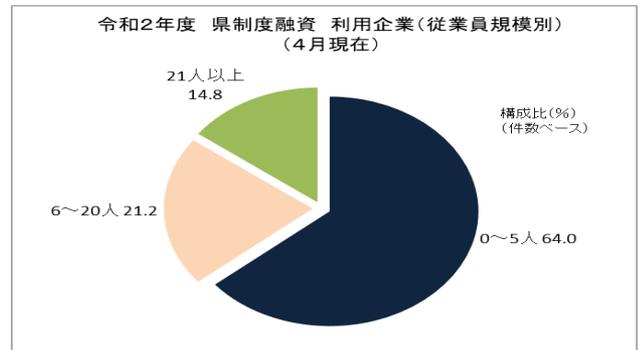
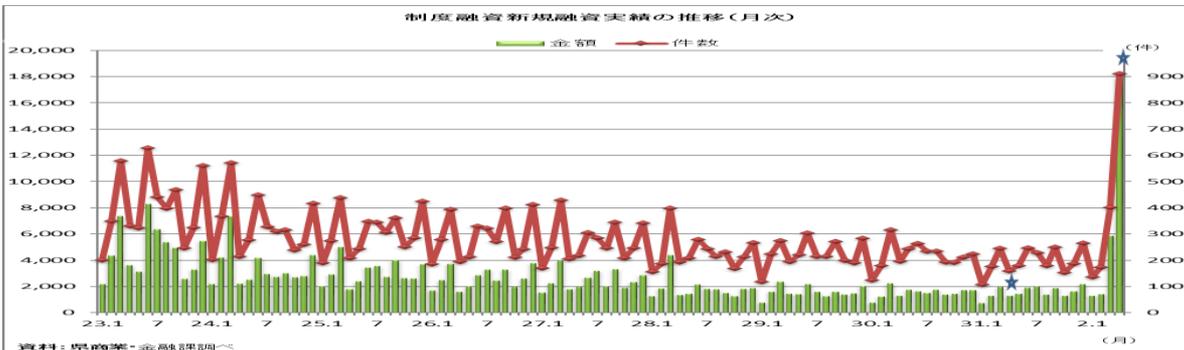
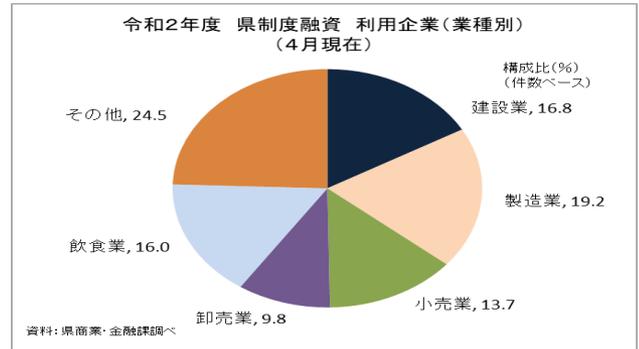
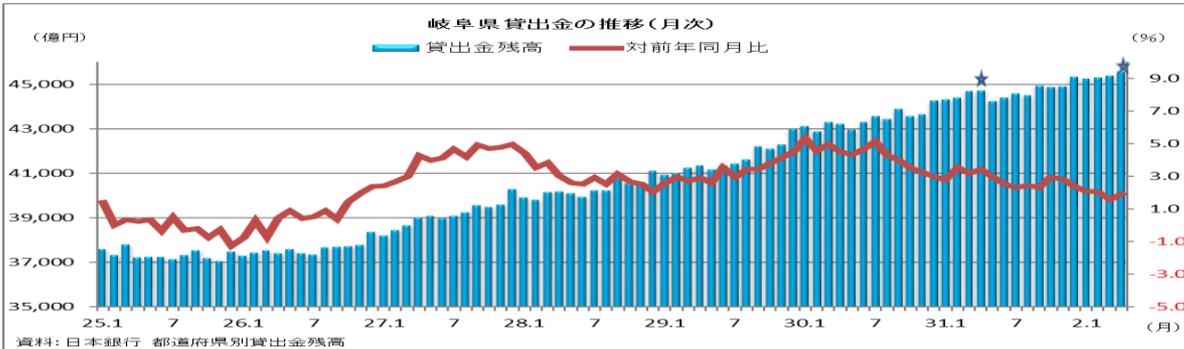


現場の動き

- ◆5月末まで休業している。(岐阜市内、多治見市内、恵那市内、高山市内、下呂市内の宿泊施設)
- ◆旅行業はこの1年厳しく、生き残りができるか不安。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆8月末までの団体予約は全てキャンセルになる見通し。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆4月中旬から素泊まりでのみ営業。レストランを休業にしたため、テイクアウト弁当を始めた。(美濃加茂市内の宿泊施設)
- ◆国内のお客様の落ち込みが激しいので、まずは近場からの誘客を講じる。(高山市内の宿泊施設)
- ◆外国人については、団体旅行から個人旅行へのシフトが加速する前提で対策が必要。(高山市内の宿泊施設)
- ◆まずは、東南アジアに特化して誘客を進めてほしい。(高山市内の宿泊施設)

資金繰り

- 4月の岐阜県貸出金残高は、4兆5,591億円で前年同月比1.9%とプラス基調が続く。
- 4月の制度融資実績は、金額が17,926百万円で前年同月比1,252.3%と大幅に増加した。件数は911件で同473.0%と大幅に増加した。
- 従業員規模別では、5人以下の事業所が全体の64.0%を占めている。

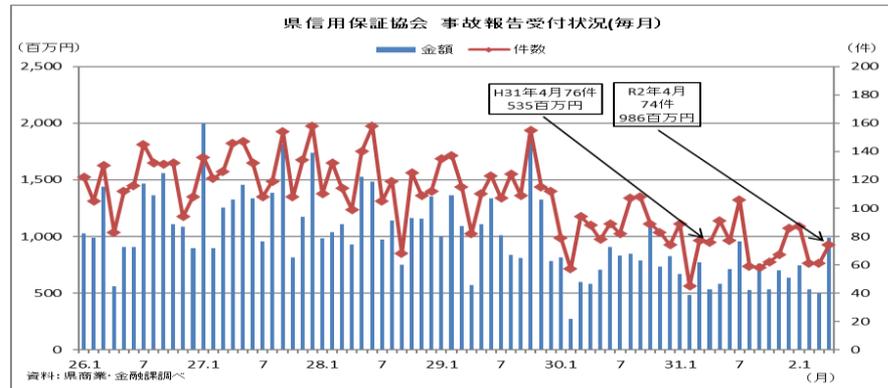
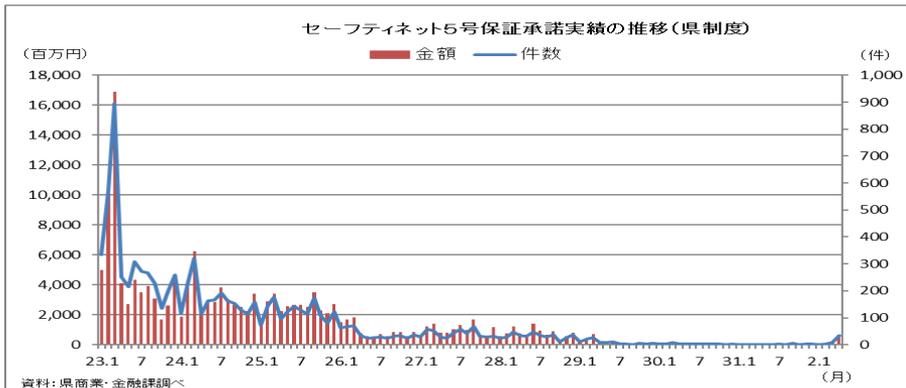
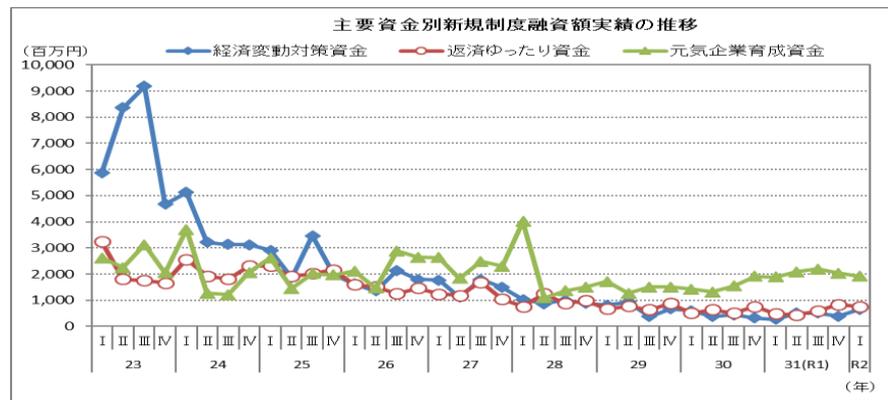
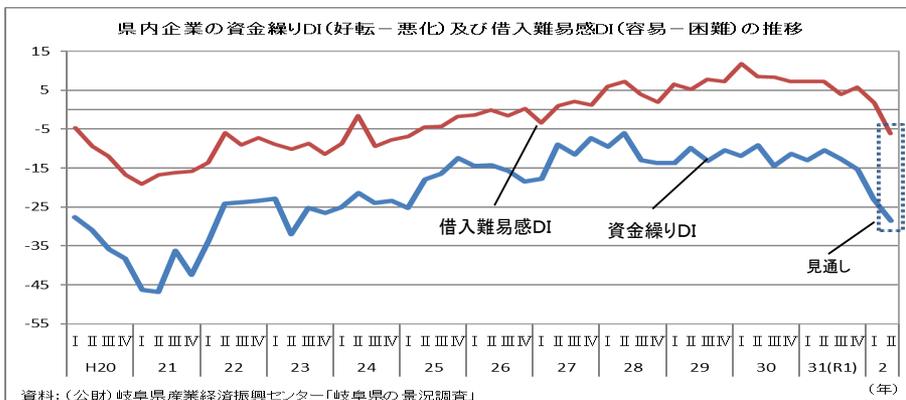


現場の動き

- ◆5月1日から実質無利子・無担保融資が開始されたことにより、引き続きコロナウイルス関連の融資は多い。業種、企業規模万遍なく申込がある。
- ◆足元の返済を猶予してほしいという相談は思ったより目立っていない。中小企業の場合、借り入れた運転資金が持つのは2~3ヶ月であり、7~8月に景況が回復していなければ、また融資の申込みが増えたり、返済に関する相談も増えると思われる。
- ◆融資は宿泊業、飲食業、小売業、製造業の増加が目立った。(以上、金融)

資金繰りー2

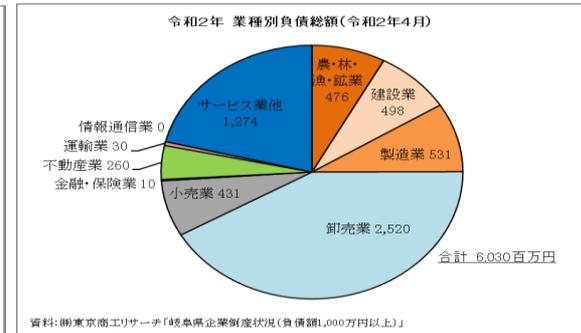
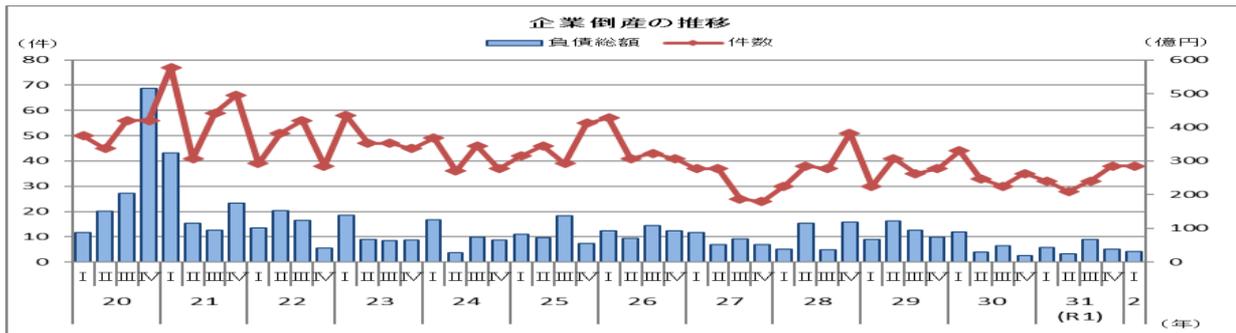
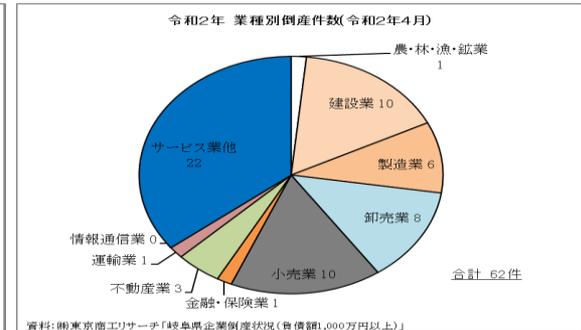
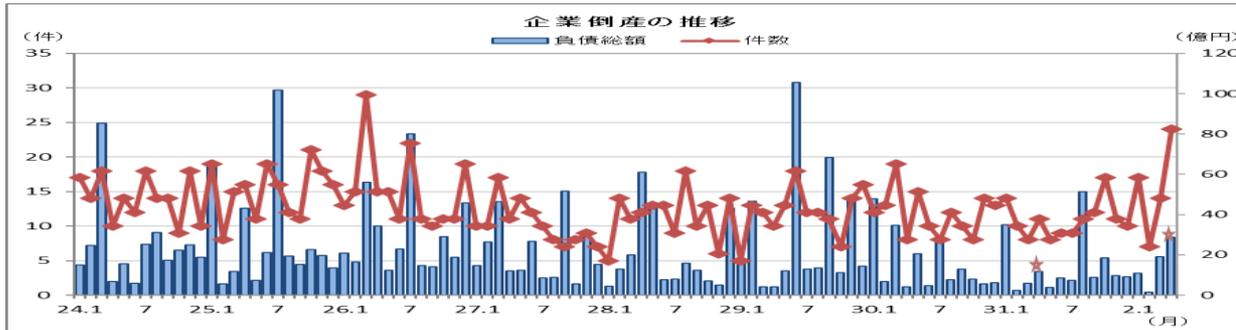
- 4-6月期の資金繰りDI見通しは▲28.5で、前期比▲5.5ポイントと低下。同借入難易感DI見通しは▲6.2で、同▲8.0ポイントと低下。
- 1-3月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比144.6%と4期連続で増加、返済ゆったり資金で同57.7%と3期連続で増加、元気企業育成資金で同1.2%と8ヶ月連続で増加となった。
- 4月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が33件で前年同月比32件と増加、金額は677百万円と6ヶ月連続で増加した。
- 4月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は74件で前年同月比▲2.6%と減少したものの、金額は986百万円で同84.5%と増加した。



倒産

○4月単月の倒産件数は前月比10件増加の24件、負債総額は前月比966百万円増加の2,886百万円となった。

○1月から4月までの累計倒産件数は62件となり、前年同期の43件から19件増加。累計負債総額は6,030百万円となり、前年同期の5,491百万円から539百万円増加で推移した。



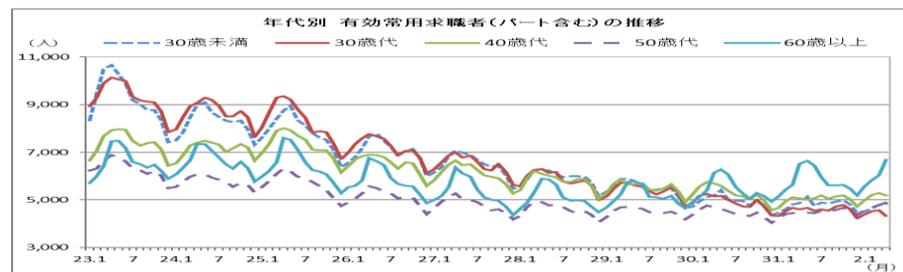
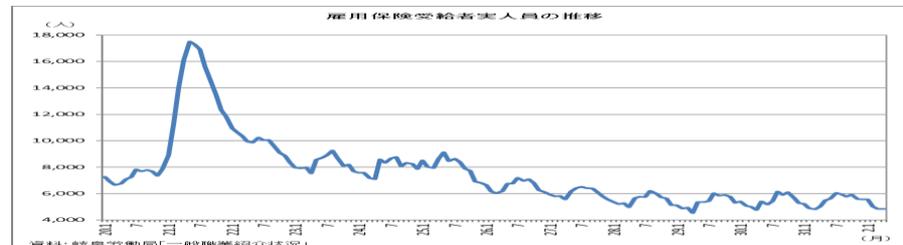
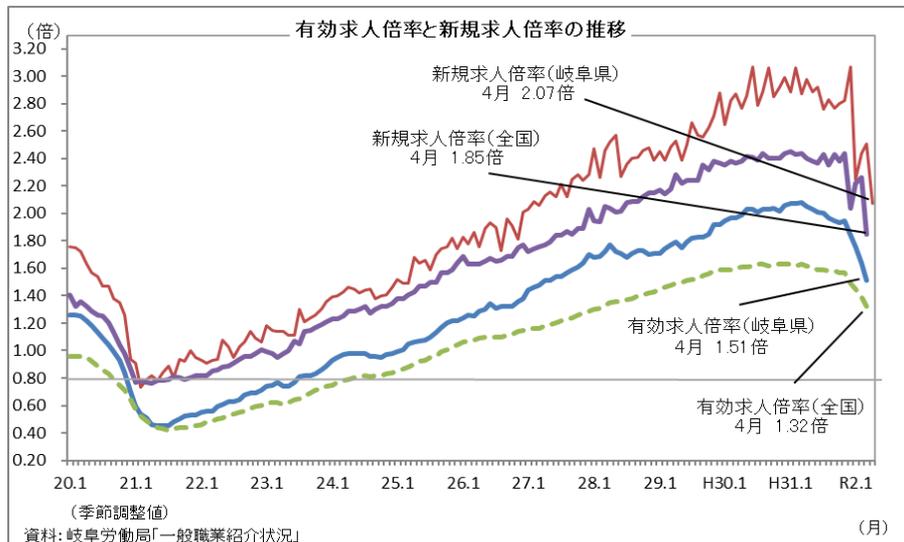
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆倒産件数が単月で20件を上回ったのは平成26年7月期以来となった。
- ◆「新型コロナウイルス」感染拡大に伴う外出自粛や休業要請が企業業績を直撃している。
- ◆経営破綻に至る企業は、規模や業種、地域を問わず、従来から業績不振で、体力や手持資金の乏しい企業が大半を占めている。業績を改善できないまま、「新型コロナ」の悪影響がとどめを刺したケースが多い。こうした企業の脱落を増やさないためにも、一刻も早い政府・行政や金融機関の支援策が必要になっている。

雇用

- 4月の有効求人倍率は1.51倍と前月比▲0.13ポイントと低下。「1.5倍」台は54ヶ月ぶりの水準。
- 4月の新規求人倍率は2.07倍と前月比▲0.44ポイントと低下した。

- 4月の雇用保険受給者人員は、前月比▲0.5%と低下した。
- 年代別有効常用求職者は、30代以下の年代で前年同月比減少した。



現場の動き

- ◆生産調整を行う中で、週休3日制の導入、残業ゼロ、ワーキングシェアによる勤務時間の削減、等の対応を取っている。(輸送用機械)
- ◆令和2年4月は予定どおり採用した。中国からの技能実習生の受け入れも継続している。(輸送用機械)
- ◆来季の採用活動は、コロナ禍の中、対応方法が見つからず困っている。(輸送用機械)
- ◆新型コロナウイルスの影響による雇止めや解雇は特段ない。以前より求人倍率が落ちてきたため、雇用がしやすくなったという話を聞いた。(金融)
- ◆新型コロナウイルスの影響で製造業界の従業員が新たな職を求めているようであり、当社への求人が増えている。(運輸)

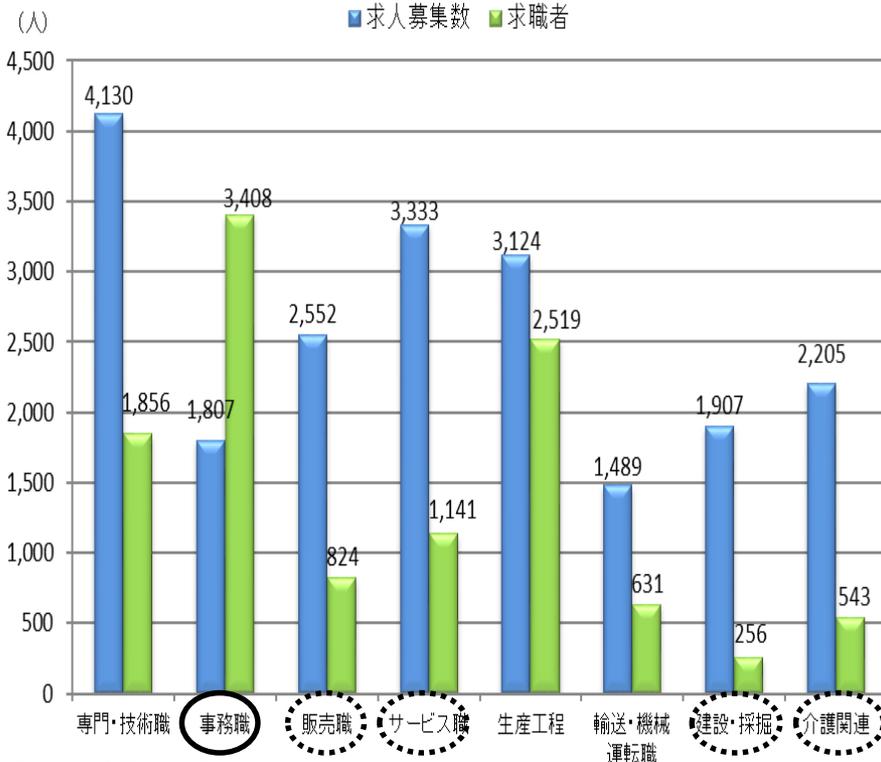
雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で7.4倍、介護関連で4.1倍、販売職で3.1倍、サービス職で2.9倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.5倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

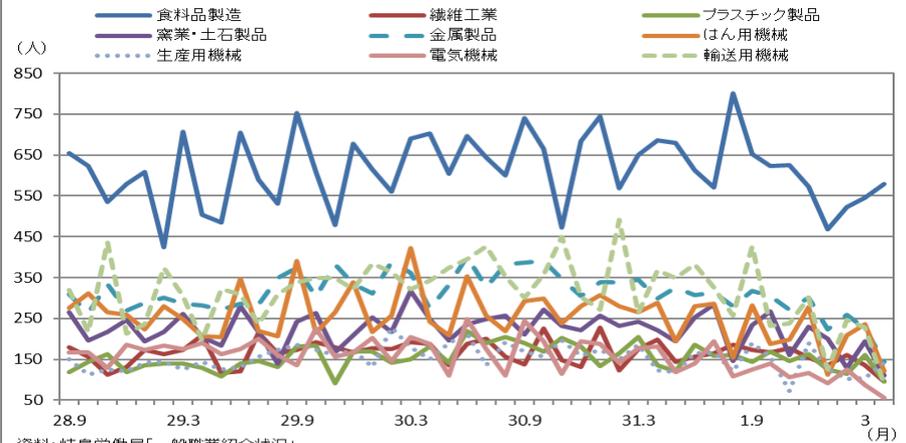
○4月の主要産業新規求人数は、生産用機械で前年同月比13.7%と増加したものの、輸送用機械で同▲75.5%、電気機械で▲68.5%、はん用機械で▲58.0%など多くの産業で減少した。

4月 職業別有効求人募集数・有効求職者数(常用)

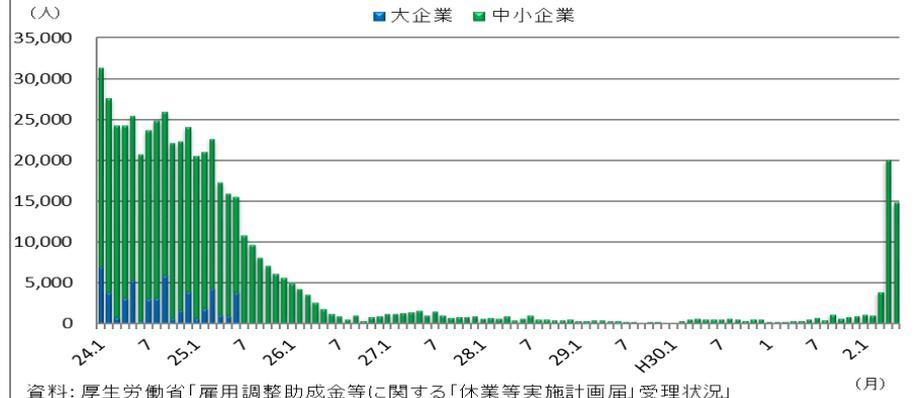


資料: 岐阜労働局「求人・求職」バランスシート

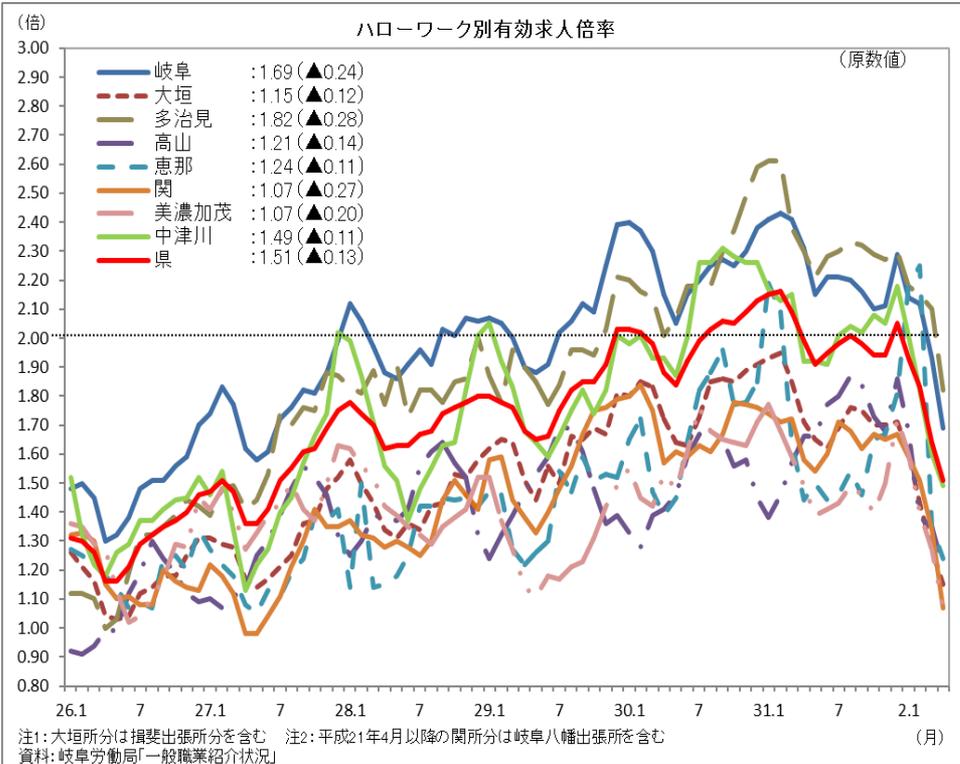
主要産業別 新規求人数(一般+パート)推移



雇用調整助成金の申請状況



雇用(地域別)



○4月のハローワーク別有効求人倍率は、全ての地域で前月比で低下した。

現場の動き(前月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数は減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

<ハローワーク中津川>

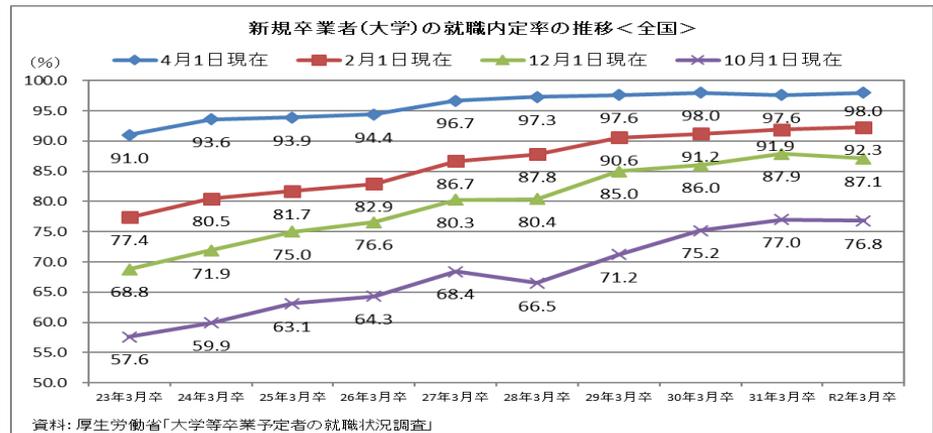
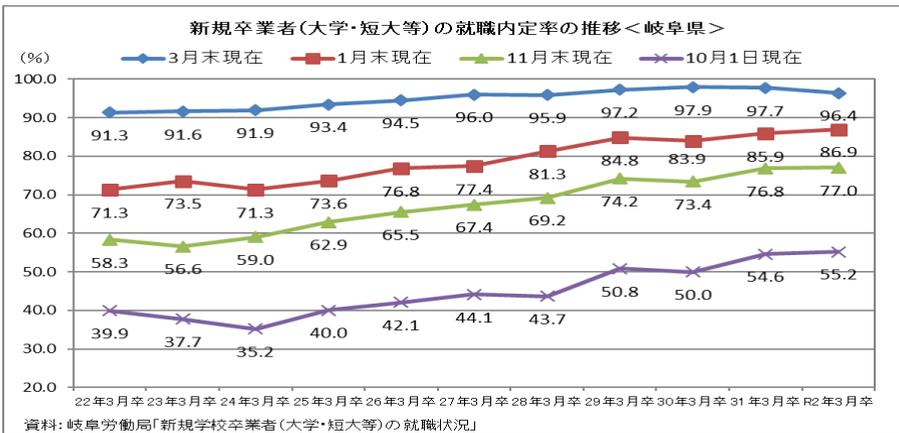
- ◆求人者数はやや増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<窓口の様子> ※前月比

- ◆岐阜と多治見のみ、窓口の混雑が緩和された。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

- 岐阜県の令和2年3月末時点の大学・短大卒業者(令和2年3月卒業)の就職内定率は、96.4%であり、前年同時点と比べ▲1.3ポイント低下した。
- 全国の令和2年4月1日現在の大学・短大卒業者(令和2年3月卒業)内定率は98.0%であり、前年同時点と比べ0.4ポイント上昇した。



現場の動き(2021卒の動きなど)

<大学へのヒアリング>

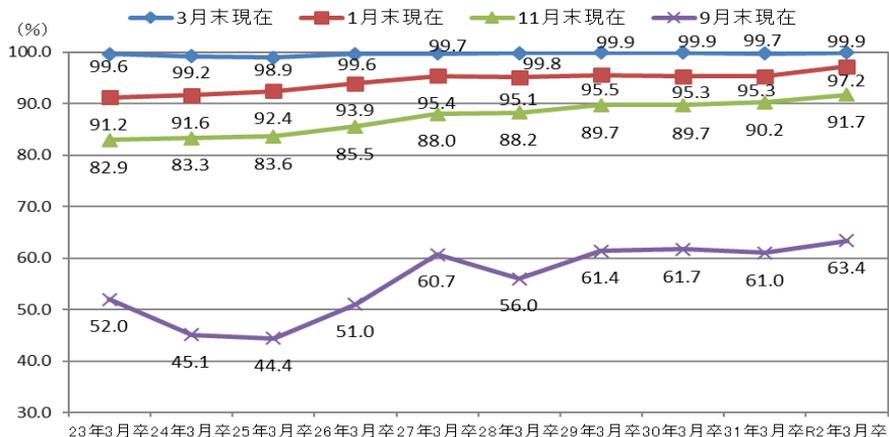
- ◆学生からの相談は、電話、メール、オンラインで対応している。相談内容としては、オンラインで模擬面接を行って欲しい、といったが多い。
- ◆現在、4年生に対して就活状況をヒアリングするために電話をかけており、ヒアリングできた学生のうち約30%弱ほどが内々定を獲得している。4月に比べると学生の相談が減っており、活動が止まっているように感じられる。(以上、岐阜県内大学)
- ◆教育活動を順次再開するため、5月中旬よりキャリアセンターを含む学内一部施設を開放。学生からの相談自体はあまり多くはないが、オンラインでの模擬面接、直接の模擬面接を行って欲しいという相談もある。動いていない学生が多いのではないかと心配であり、6月から一気に選考が動いていく中で、果たして学生がそこについていけるかも心配。
- ◆5月初旬からオンライン授業開始、前期は全てオンライン授業。ごく一部のネットが使えない学生だけ、大学内で受講している。(以上、愛知県内大学)

雇用(高校新卒者の就職)

○岐阜県の令和2年3月末時点の高校卒業者(令和2年3月卒業)就職内定率は99.9%であり、前年同時点と比べ0.2ポイント上昇した。

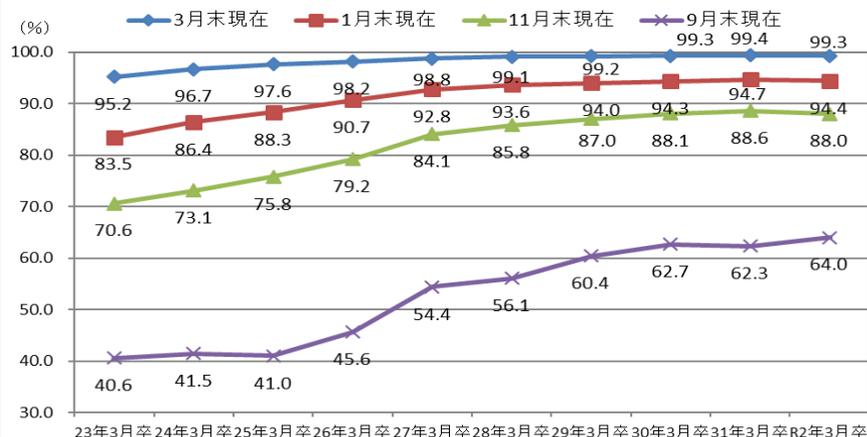
○全国の令和2年3月末時点の高校卒業者(令和2年3月卒業)就職内定率は99.3%であり、前年同時点と比べ▲0.1ポイントと低下した。

新規卒業者(高校)の就職内定率の推移<岐阜県>



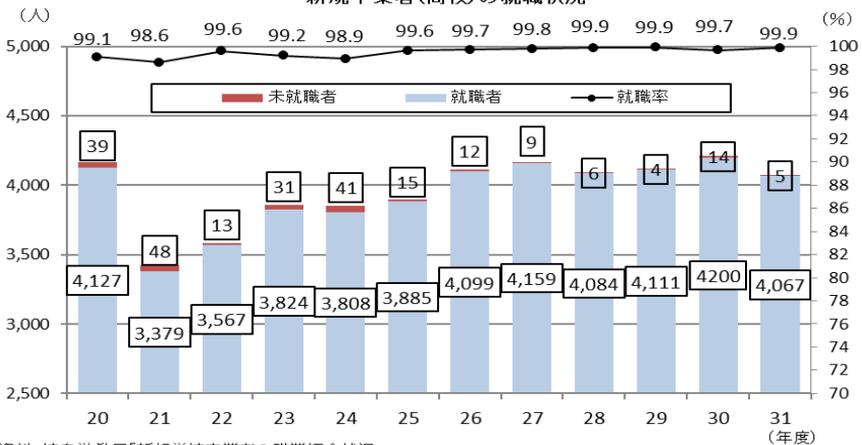
資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

新規卒業者(高校)の就職内定率の推移<全国>



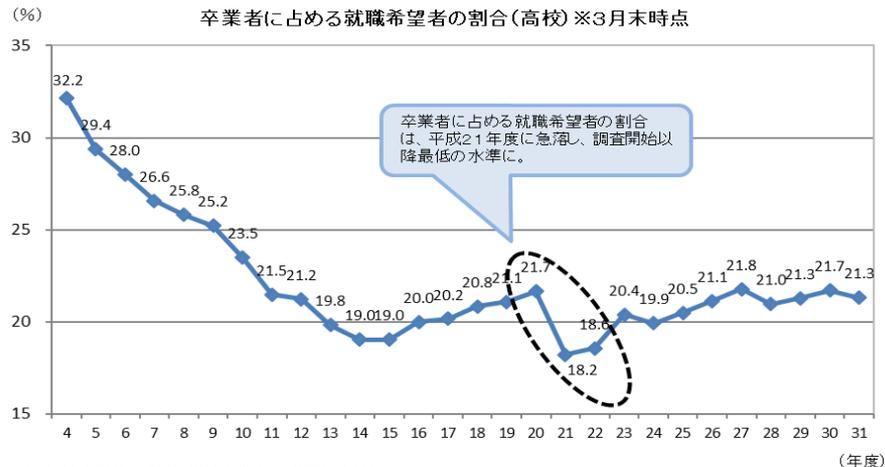
資料: 厚生労働省「高校・中学新卒者の求人・求職・内定状況(高校・中学新卒者)」

新規卒業者(高校)の就職状況



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

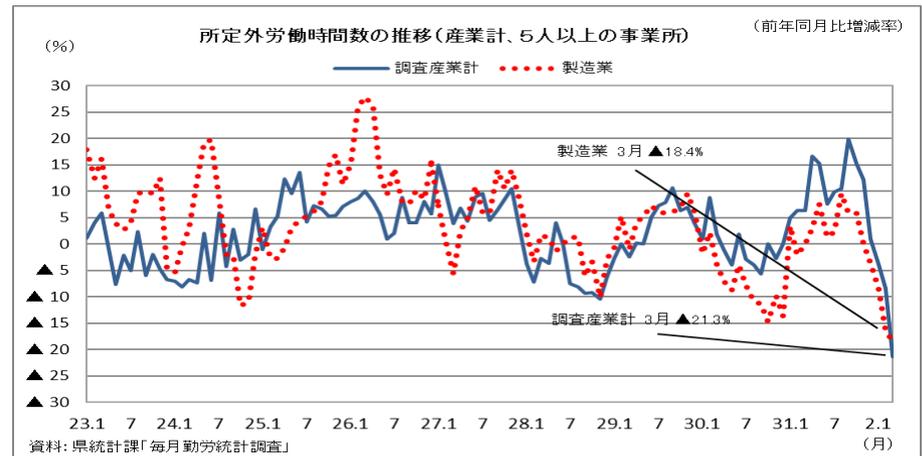
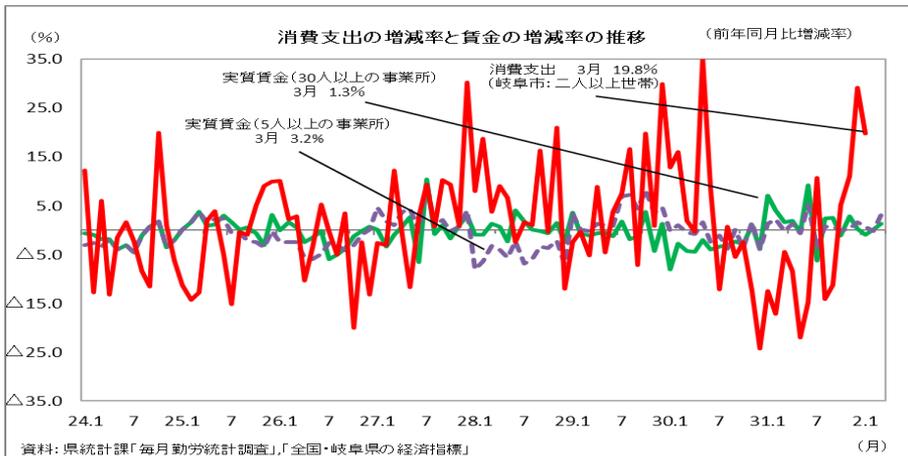
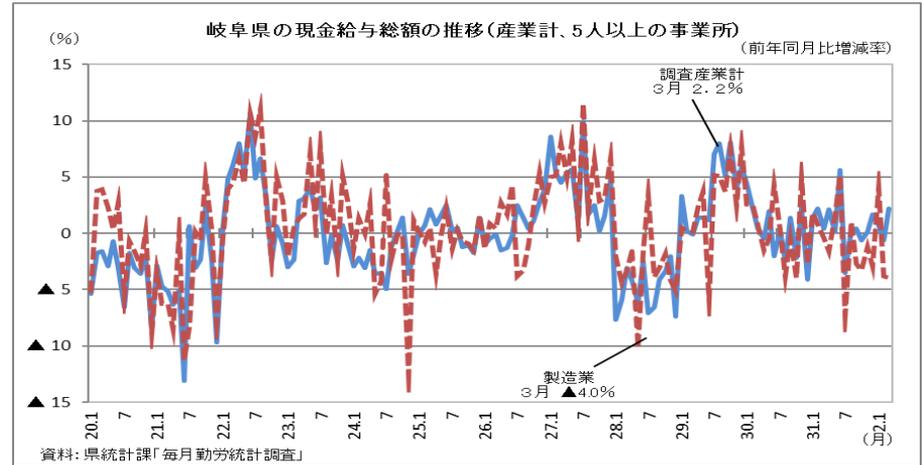
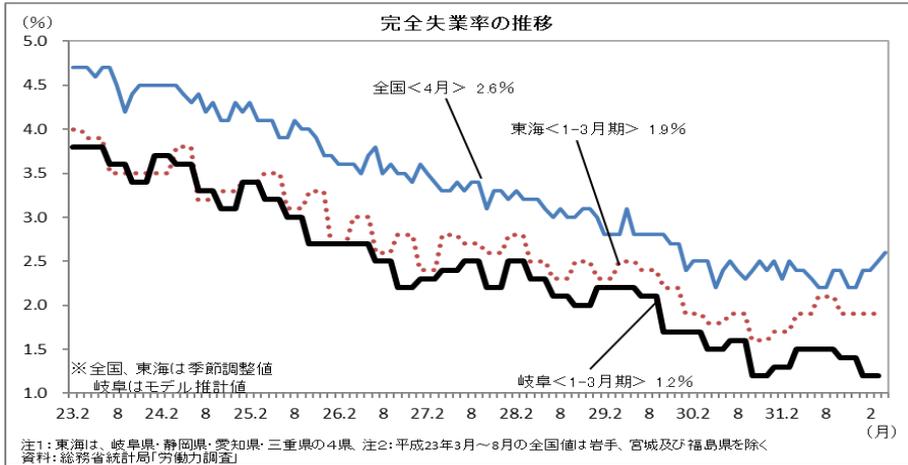
卒業者に占める就職希望者の割合(高校)※3月末時点



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

雇 用(完全失業率等)

- 全国の4月の完全失業率は2.6%で前月比0.1ポイント上昇。岐阜県の1-3月期の平均は1.2%で前期比▲0.2ポイントと減少。
- 3月の岐阜県現金給与総額は、全産業で前年同月比2.2%増加、製造業では同▲4.0%と減少。
- 3月の実質賃金増減率は、5人以上の事業所は前年同月比3.2%増加、30人以上の事業所は同1.3%増加。消費支出については同19.8%と4ヶ月連続で増加した。
- 3月の所定外労働時間数は前年同月比▲21.3%と減少した。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、3月の鉱工業生産指数では、化学工業が大幅に増加したものの、多くの産業で低下となった。ヒアリングにおいては、工場稼働率が落ち込んでおり、雇用への影響を懸念する声が聞かれた。
- 地場産業は、3月の鉱工業生産指数では、繊維工業で前月比増加したが、その他の産業で低下となった。ヒアリングにおいては、新型コロナウイルスの影響で新たな受注が減少しており、需要低迷を不安視する声が目立った。
- 設備投資は、4月の金属工作機械受注額について、前年同月を大きく下回った。前年同月を下回ったのは、国内向けは17ヶ月連続、海外向けは18ヶ月連続となった。ヒアリングにおいては、新規の設備投資が延期となるとの声がある一方で、IT関連の設備投資など補助金を活用し積極的に実施するとの声もあった。
- 個人消費は、小売店の4月の販売額について、全体では前年同月比で3ヶ月連続の増加となったが、コンビニなど落ち込んだ業態もあった。ヒアリングにおいては、外出自粛等によって個人の消費動向に変化(例：ネット購入の増加)が見られるようになった、といった声が多くあった。
- 観光は、前年と比較し、新型コロナウイルスの影響による施設等の休業により、観光地、宿泊施設ともに前年同月を大きく下回った。インバウンドは、ほぼゼロに近い数字となった。ヒアリングにおいては、国内旅行客の誘客には近場から対策していくとの声があった。
- 企業の資金繰りは、4月の制度融資実績で、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からは、引き続き新型コロナウイルス関連の融資は多く、業種、企業規模万遍なく申込がある、との声があった。
- 雇用面は、4月の有効求人倍率は、1.51倍と54ヶ月ぶりに1.5倍台の水準にまで低下した。ヒアリングにおいて、生産調整を行っており、週休3日の導入や勤務時間の削減などで対応しているとの声がある一方、求人が増え新規雇用がしやすくなったという声もあった。